

概要

本市における公共交通ネットワークは、海岸線にそって運行しているJR鹿児島本線と、西鉄バス並びに産交バスの2社によるバス路線網及びタクシー事業者(5社)にて構築されている。特に、産交バスについては、平成17年度に市営バスから全路線の譲渡を受けたため、平成25年9月まで市域線18路線、広域線5路線の計23路線運行し、市域の大半をカバーしていた。しかしながら、路線バス(産交バス)の利用者の減少に歯止めがかからず、市の財政負担も重くなったことから、本市に最適な交通体系の構築を目指し、平成24年4月に地域公共交通活性化協議会(法定協議会と地域公共交通会議も兼ねる)を設置した。

そこで、協議を重ねた結果、「路線バスを中心としながら、他の交通モードを組み合わせた最適で持続可能な地域公共交通体系の構築」を基本方針とした荒尾市地域公共交通総合連携計画(H25～H28)を策定し、この計画に基づき本年度10月に運行の効率化と利便性の向上を図るため、路線バスを広域線2路線市域線13路線に再編するとともに、利用者が少なく路線バスの運行と競合しない地区については、路線バスを廃止し予約型の乗合タクシーを導入している。

また、路線バスの再編にあたり、玉名市と本市を結ぶ路線(桜山経由玉名合同庁舎荒尾線)や市内の主な場所(駅・市役所・市民病院・商業施設など)をとる八幡台線など主要路線(5系統)とその他の一般路線(10路線)の役割を明確にするるとともに、分かりやすく利用しやすいバスを目指し、路線の番号表記やパターンダイヤを導入し、バス路線間はもとより乗合タクシーとの乗継等にも配慮している。

これにより、路線バスと乗合タクシー、鉄道とのベストミックスにより地域間はもとより、市内の公共交通ネットワークを構築し、車を運転できない市民の通勤や通学、買い物、通院など日常生活に必要な移動手段として確保している。



図1 国庫補助対象路線のイメージ

基礎データ

人口:55,257人(平成25年12月末 住民基本台帳人口)
 面積:57.15平方キロメートル
 過疎地域等指定:なし
 高齢化率:29.96%
 地域公共交通系統数:路線バス15系統 乗合タクシー 2系統
 (うち確保維持事業対象 6系統。5系統はH26年度から)
 自治体負担額(公共交通):H22 5,566万円 H23 5,357万円 H24 5,583万円
 協議会開催回数:協議会4回(うち書面協議1回。今後、開催予定含む)

地域協働推進事業計画における取組内容(Plan)

取組内容	年度		
	1年目 (平成25年度)	2年目 (平成26年度)	3年目以降 (平成27年度)
地域公共交通に関する情報提供 (荒尾市・産交バス・荒尾市観光協会・商業施設)	<ul style="list-style-type: none"> ・地域公共交通を網羅したマップの作成、全世帯への配付 ・バス停における乗継情報作成及び掲示 ・乗務員における利用者への乗継情報の提供 ・市や観光協会のホームページにおける地域公共交通に関する情報提供(観光スポット情報との連携を含む) ・地域間幹線の利用促進のための広告バスや利用者への特典の付与の検討、協議 	<ul style="list-style-type: none"> ・市や観光協会のホームページにおけるイベント開催周知の際に、公共交通に関する情報掲載 ・地域間幹線の利用促進のための広告バスの運行や利用者への特典の付与 	<ul style="list-style-type: none"> ・市や観光協会のホームページにおけるイベント開催周知の際に、公共交通に関する情報掲載
モビリティマネジメントの実施 (荒尾市・産交バス・荒尾市タクシー協会)	<ul style="list-style-type: none"> ・乗合タクシー導入地区におけるアンケート(事前・事後) ・乗合タクシーに関する地域説明会や体験試乗会の実施 ・路線バス乗り方教室の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・路線バスに関するモビリティマネジメントの実施(アンケート事前・事後)(簡易TFP) ・路線バス乗り方教室の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・路線バス乗り方教室の実施

※取組内容のカッコ書きは、実施主体。

地域協働推進計画等の実施状況(Do)



図2 公共交通マップと総合時刻表の作成



図3-1 バス停における乗継案内



図3-2 総合案内板（荒尾駅前バス停）

路線バス廃止で 乗り合いタクシー
荒尾市 2地区で来月から

荒尾市は10月1日、市東部の平井・府本2地区に予約型乗り合いタクシーを導入する。民間の路線バスが9月末で廃止されるため、地域住民の移動手段を確保する。19日は体験試乗会があった。13人が参加、平井地区に住む大村生さん（84）は「バス停よりも近から乗れるのは良いが、予約に慣れるまでは大変だと話した」（中塚功一朗）

路線バス廃止で乗り合いタクシー
利用するには事前登録（無料）が必要で、乗車日の2日前から乗車時刻の2時間前までに電話で申し込み、中学生以上200円、小学生100円、路線バスに100円で乗車できる市の高齢者福祉乗車証は使えない。試乗会には両地区の13人が参加、平井地区に住む大村生さん（84）は「バス停よりも近から乗れるのは良いが、予約に慣れるまでは大変だと話した」（中塚功一朗）

10月から運行開始する予約型乗り合いタクシーを体験する人たち＝荒尾市

図4 体験試乗会を伝える記事（熊本日日新聞 H25.9.21付け）



図5 路線バス乗り方教室（H25.11.8実施）

目標の達成(Check)

平成25年度の地域協働推進事業の定量的な目標として次の目標を掲げており、達成状況は下記の表のとおりである。

地域協働推進事業計画の定量的目標に掲げた路線バスの3路線については、路線バスの再編により他の路線からの乗り変わりが生じたため利用者が増加する見込みであるが、今回目標が達成できなかった地域公共交通利用者数については、ここ数年継続していた年間2～3%の減少率は、平成25年度において1%台になる見込みであり、路線再編の効果が働いているものの、これまでの利用していた者の減少を新たな利用者の増加で補えず、目標を下回る結果となった。

また、乗合タクシー利用者数については、導入地区において地区公民館単位で説明会（計16か所・延べ309名参加）を開催するとともに、登録申請を呼びかけるチラシ等を昨年9月と12月に全戸配布するなど行ったが、制度の周知が十分とせず対象地区人口の8%の利用登録申請率にとどまっている。

指標名	現状値	目標値（H25年度）	H25年度実績（見込み）
地域公共交通(市域路線バスなど)利用者数	26万人※1	26万人	25万人
乗合タクシー利用者数	11,700人※2	6,000人※6	3,000人
路線バス(住吉線)の利用者数	3,061人※3	3,500人	5,040人
路線バス(八幡台線)の利用者数	63,737人※4	65,000人	82,200人
路線バス(助丸線)の利用者数	9,062人※5	11,000人	13,140人

※1 平成23年度の利用者数

※2 府本環状線、庄山環状線(平成24年度)における、平井地区・府本地区での利用者の推計値。

※3 住吉線(平成24年度)における利用者数。

※4 八幡台線、下金山線(平成24年度)における利用者数。路線再編により運行回数が平日8往復から13.5往復へ増便するため。

※5 助丸線(平成24年度)における利用者数。路線再編により運行回数が平日2.5往復から6往復、土・日祝日も2.5往復から3.5往復へ増便するため。

※6 平成25年10月から平成26年3月までの期間の利用者数

今後の課題、対応(Action)

平成26年度においては、地域公共交通(路線バスなど)の利用者数の増加を目指し、路線バスに関するモビリティマネジメントとして沿線地区(2地区程度を抽出し)アンケート(簡易TFP)等を実施するとともに、路線バスの乗り方教室や乗合タクシーの制度説明会等を実施し、新たな利用者を開拓するとともに、地域間幹線の利用促進のための広告バスの運行等を実施する予定である。

なお、モニタリングとして再編後の路線バスの乗降調査や乗合タクシーに関するアンケートを実施し、利用者のニーズにあった利便性の高い本市にとって最適な交通体系の構築を目指し取り組んでいく。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
(地域公共交通調査等事業)

平成26年2月28日
九州運輸局

評価対象事業名：地域協働推進事業

協議会名	①事業の結果概要	協議会における事業評価結果		地方運輸局等における 二次評価結果	備考
		②事業 実施の 適切性	③計画策定に向けた方針 又は事業の今後の改善点	評価結果	
荒尾市地域公共交通活性化協議会	<p>地域公共交通に関する情報提供 地域公共交通マップの作成及び配布 【荒尾市】</p> <p>・地域公共交通マップ及び総合時刻表を作成し、全世帯へ配布するとともに、市役所をはじめ、ショッピングモールや、中央公民館等において、広く配布を行った。また、各地区(中学校単位)の住民説明会においても配付し、路線バスの再編や乗合タクシーの導入について周知を図った。</p>	A	計画のとおり事業が実施できた。	<p>○各種情報提供後も利用状況を継続的にモニタリングするとともに、情報提供手段についても、更に工夫を凝らし、利用者の増加に繋げるための地道な取り組みを図られるとともに、行きたい場所へのピンポイントでの情報提供についても取り組まれない。</p> <p>○乗り方教室については、児童のみならず保護者もターゲットとすることで、より効果的な取り組みとされたい。</p> <p>○商業施設等とのタイアップによる広告収入など、運行費用の削減等効率的な運営に務められることが望ましい。</p>	
	<p>バス停における乗継情報の作成及び 掲示 【産交バス】</p> <p>・各バス停において路線や乗継情報に関する情報を掲示するとともに、「あらおシティモール」や路線バスの発着点である「バスセンター」や「荒尾駅」において、総合案内板をリニューアルし、路線バスに関する情報の提供を行った。</p>	A	計画のとおり事業が実施できた。		
	<p>乗務員における利用者への乗継情報の提供【産交バス】</p> <p>・運行表に、乗継に関する情報を併せて記載し、乗継ポイントとなるバス停に関する情報(接続している路線の発車時刻など)を各乗務員が利用者へ提供を行った。</p>	A	計画のとおり事業が実施できた。		

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
(地域公共交通調査等事業)

平成26年2月28日
九州運輸局

評価対象事業名：地域協働推進事業

協議会名	①事業の結果概要	協議会における事業評価結果		地方運輸局等における二次評価結果	備考
		②事業実施の適切性	③計画策定に向けた方針又は事業の今後の改善点	評価結果	
荒尾市地域公共交通活性化協議会	市や観光協会のホームページにおける地域公共交通に関する情報提供(観光スポット情報との連携を含む) 【荒尾市、荒尾市観光協会】 ・市のホームページにおいて、乗合タクシーや路線バスに関する情報を掲載し、情報提供を行った。併せて市の主要な観光施設に関するアクセスについても、路線バス等の情報を追加修正を行った。	B	観光イベントの把握ができておらず、適切な情報提供が出来ない場合があった。	○各種情報提供後も利用状況を継続的にモニタリングするとともに、情報提供手段についても、更に工夫を凝らし、利用者の増加に繋げるための地道な取り組みを図られるとともに、行きたい場所へのピンポイントでの情報提供についても取り組まれない。 ○乗り方教室については、児童のみならず保護者もターゲットとすることで、より効果的な取り組みとされたい。 ○商業施設等とのタイアップによる広告収入など、運行費用の削減等効率的な運営に務められることが望ましい。	
	地域間幹線の利用促進のための広告バスや利用者への特典の付与の検討、協議【荒尾市、産交バス、商業施設】 ・利用者への特典の付与や広告バスについては、商業施設等と本年度内に、協議を重ねる予定である。	B	交通事業者からの特典の付与は、運賃の値下げになるため積極的な協力は難しいとのことであり、再度、商業施設や交通事業者と本市で協議を行う予定である。		
	モビリティマネジメントの実施 乗合タクシー導入地区におけるアンケート(事前・事後)【荒尾市】 ・アンケート調査については、熊本大学の協力を受け、初回(導入前)のアンケート配付は地域説明会(9月実施)にて配付(309通配付)し、また、2回目については、12月に実施(郵送)した。今回の調査では、アクティビティダイアリー調査も併せて実施し、同一人物に2回、回答してもらう方法をとったため、回答サンプル数が少ない結果(2回とも回答は20数名)となった。 ・今後、1月末に乗合タクシーの登録者及び利用者に対するアンケート調査(対象者:約560名)を実施する予定である。	B	計画のとおり事業を実施したが、回答者数が想定より少なかった。		

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
(地域公共交通調査等事業)

平成26年2月28日

九州運輸局

評価対象事業名：地域協働推進事業

協議会名	①事業の結果概要	協議会における事業評価結果		地方運輸局等における二次評価結果	備考
		②事業実施の適切性	③計画策定に向けた方針又は事業の今後の改善点	評価結果	
荒尾市地域公共交通活性化協議会	<p>乗合タクシーに関する地域説明会や体験試乗会の実施 【荒尾市・荒尾市タクシー協会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・乗合タクシー導入地区において、各集落の公民館単位で説明会(計16か所・延べ309名参加)を開催した。 ・説明会の参加者の中で、今後乗合タクシーの利用者となる可能性が高い希望者の参加のもと、乗合タクシーの体験試乗会(13名参加)を実施した。(9月実施) 	A	計画のとおり事業が実施できた。	<p>○各種情報提供後も利用状況を継続的にモニタリングするとともに、情報提供手段についても、更に工夫を凝らし、利用者の増加に繋げるための地道な取り組みを図られるとともに、行きたい場所へのピンポイントでの情報提供についても取り組まれない。</p>	
	<p>路線バス乗り方教室の実施 【産交バス】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・希望があった市内の保育園(1園)にて、実際に運行している路線バスを使い、整理券の取り方や降車の際のチャイムの押し方など正しい路線バスの利用方法を教えるとともに、幼い頃から路線バスなどの公共交通機関に慣れ親しむ機会を提供した。 ・商業施設の協力を得て、路線バス相談会を9月に実施(1週間程度)。路線バスの利用者へ早めの周知を行うことができたため、大きな混乱や大幅な利用者離れを避けられた。 	B	保育園からの依頼があり、今回1か所で開催できたが、ほかの保育園や幼稚園、小学校等での開催ができなかった。	<p>○乗り方教室については、児童のみならず保護者もターゲットとすることで、より効果的な取り組みとされたい。</p> <p>○商業施設等とのタイアップによる広告収入など、運行費用の削減等効率的な運営に務められることが望ましい。</p>	